

専門家意見聴取施設の概要と対応案について

部	施設名	棟名	グループ	最小Is値 (Iw)	建築構造		地震防災	対応案		備考
					原 元摂南大学教授	阿波野 近畿大学教授	牧 京都大学防災研究所教授	ハード対策	ソフト対策	
43	浄化センター	最初沈殿池上屋(1号)	④	0.32	柱脚部の劣化を考慮して経年指標を低く(0.661)みている。柱の劣化補修を行うことで経年指標が上がり(0.9程度)、Is値は0.57程度となる。柱の亀裂により変形性能を悪く見過ぎている。再度検討することで靱性指数(変形に対する粘り強さ)がもう少し上がるため、Is値0.6を超えるであろう。目標Is値は0.72であるが、再検討のIs値がどの程度となるか確認すること、また、点検時以外人が立ち入らないことも考慮し、どこまで補強するかは県で判断する。	下部の土木構造物の劣化は激しいが、上屋部分については経年指標を低く見過ぎているので見直しをすれば良いのではないかと。円形構造のため補強は難しい。点検時以外人が立ち入らないため補強はせず、1階柱目地部分など、劣化が激しく経年指標を下けている部分の補修をすれば良いのではないかと。	最も近い出入り口から避難する経路となっているので問題ない。避難経路を関係者へ周知のうえ掲示しておくこと。	ハード対策	ソフト対策	(その他) 一般の方が近づかないようにする 点検者へ避難経路の確認・周知
44		最初沈殿池上屋(2号)	④	0.33						
45		汚泥ポンプ棟	④	0.50	1階C通りの柱は内法高さの取り方が適切でないため、再計算するとIs値は0.57となる。構造スリットを設けることで靱性(粘り強さ)が向上し、Is値は0.6以上確保できるであろう。その部分は工事のしやすい箇所であり、極脆性柱の解消となるため、その部分の改修を実施した方がよい。	L型柱を壁と見なせば強度は上がる。また、1階C通りの柱は内法高さの取り方が適切でないため、見直すとIs値は0.57まで上がる。スリット補強すればIs値0.6以上を確保できるが、点検時以外人が立ち入らないため、実施するかどうかは県で判断する。				
47	総務部 消防学校	屋内訓練場	③	0.13	屋根面は剛床仮定(剛性があり力が加わっても変形しない)が成り立つが、ギャラリー部の重量が屋根面に伝達できていない。また、プレースの接合部の強度が低い。プレース耐力が確保できるよう接合部のプレートとも取替が必要。柱頭部の補強は、既設の横方向の部材の強度を確認すること。妻壁部の補強はトラス補強でも良いが、コストを考え、RC補強でも良い。ただし、片持ち梁形式の補強となるので、梁元端部の固定方法を検討すること。	弱点となる極脆性柱、せん断柱は存在しないが、2Fプレースの接合部強度と独立柱の靱性が弱い。また、柱頭部で地震によりギャラリー部にかかる力が屋根に伝達できていない。鉄骨トラスによる補強でも良いが、Is値0.6を確保できるのなら、コスト面と高力ボルトが不足している現状を考慮してRCでの補強を行うほうが良いのではないかと。その他、ギャラリー床開口部閉塞、プレースの補強、柱頭部の補強を行えばよい。	最も近い出入り口から避難する経路となっており、この避難経路で良い。避難経路を関係者へ周知のうえ掲示しておくこと。	【応急】≪12月補正≫債務負担 5,527千円 ・北側独立柱の倒壊を防ぐため外壁面にRC梁の補強、ギャラリー床開口部閉塞、2階既存鉄骨プレース補強及び屋根接合部の補強を行うための実施設計を行う。	(その他) 避難経路の掲示	移転予定(時期未定)